

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成26年6月19日(2014.6.19)

【公表番号】特表2013-529781(P2013-529781A)

【公表日】平成25年7月22日(2013.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2013-039

【出願番号】特願2013-516523(P2013-516523)

【国際特許分類】

G 0 1 N 30/26 (2006.01)

G 0 1 N 30/74 (2006.01)

G 0 1 N 30/64 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 30/26 E

G 0 1 N 30/26 A

G 0 1 N 30/74 E

G 0 1 N 30/64 A

G 0 1 N 30/64 C

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月1日(2014.5.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1の性質の所定値及び第2の性質の所定値を含む所定の特性を有する混合液体流を製造する方法であって、

a) 各々が第1の性質の異なる第1の値を有する1種以上の液体流の第1の組を用意する工程と、

b) 各々が第1の性質の異なる第2の値を有する1種以上の液体流の第2の組を用意する工程と、

c) 溶媒の1種以上の液体流の第3の組を用意する工程と、

d) 用意された液体流を合わせる工程と、

e) 得られた混合液体流における第1の性質及び第2の性質がそれぞれの所定値に調節されるように第1及び第2の組の液体流の少なくとも一方並びに第3の組の1種以上の液体流を変化させる工程と

を含む方法。

【請求項2】

第1及び第2の性質がpH、導電率、濃度及び吸光度から選択される、請求項1記載の方法。

【請求項3】

混合液体流が緩衝剤であって、第1の組の各液体流が1種以上の塩基性緩衝成分を含有し、かつ第2の組の液体流の各液体流が1種以上の酸性緩衝成分を含有しているか、或いはその逆であり、場合により、1種以上の塩基性緩衝成分を強塩基に代えるか又は1種以上の酸性緩衝成分を強酸に代える、請求項1又は請求項2記載の方法。

【請求項4】

第1の性質がpHであり、第2の性質が緩衝剤濃度であって、請求項1の工程e)にお

いて、第 1 及び第 2 の組の液体流の少なくとも一方を変化させて pH をその所定値に調節する、請求項 3 記載の方法。

【請求項 5】

第 1 の性質が pH 以外の性質、好ましくは導電率又は吸光度であり、第 2 の性質が緩衝剤濃度であって、請求項 1 の工程 e ) において、第 1 及び第 2 の組の液体流の少なくとも一方を変化させて第 1 の性質をその所定値に調節する、請求項 3 記載の方法。

【請求項 6】

第 1 の性質が pH であり、第 2 の性質が緩衝剤濃度及び pH 以外の性質、好ましくは導電率又は吸光度であって、請求項 1 の工程 e ) において、第 1 及び第 2 の組の液体流の少なくとも一方を変化させて pH 及び第 2 の性質をそれらの所定値に調節する、請求項 3 記載の方法。

【請求項 7】

混合液体流の所定の特性が少なくとも第 3 の性質の所定値を含み、前記方法が、各々が1 種以上の添加剤を含有する第 4 の組の液体流を用意し、第 4 の組の液体流を第 1、第 2 及び第 3 の組の液体流と合わせ、第 4 の組の1 種以上の液体流を調整して少なくとも第 3 の性質をその所定値に調節する、請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 8】

第 1 の性質が pH であり、第 2 の性質が導電率であり、第 3 の性質が添加剤濃度、導電率及び吸光度から選択される、請求項 7 記載の方法。

【請求項 9】

所定の特性を有する混合液体流を得るための一組の異なる液体流の処方を用意し、処方に従ってフローフィードバックにより異なる液体流を制御することを含む、請求項 1 乃至請求項 8 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 10】

混合液体流の性質を測定しつつ異なる液体流を変化させて性質をそれらの所定値に調節し、必要とされる液体流を決定し、次いでフローフィードバックにより異なる液体流を制御することを含む、請求項 1 乃至請求項 9 のいずれか 1 項記載の方法。